



日本火災学会賞（平成20年度）

JAFSE Award 2008

地震時の火災と住民対応行動に関する研究

受賞者 正会員 北後 明彦

北後明彦君は、阪神・淡路大震災時の火災と住民行動に関する調査研究を端緒として、地震後の火災延焼防止のための住民による消火活動、及び、地震後のビル火災時の避難に関連する研究を系統的に行い、論文集、火災誌及び研究発表会概要集に掲載された一連の研究は、大都市を中心として広く残存する木造密集市街地や各地方の伝統的市街地において地震時に発生すると予想される大火災による生命や財産への甚大な被害の軽減、近年益々増加している超高層、高層の建築物や大規模商業施設等において地震後に発生する火災によって危惧される人命危険の解消等、日本における地震時の火災安全性から見て極めて重要な課題の解決に対応しているものである。

この阪神・淡路大震災時の火災調査は、火災学会が設置した兵庫県南部地震災害調査委員会において約1年半にわたって行われたが、北後君は中心的メンバーとして精力的に報告書のとりまとめを担当するとともに、市街地火災の延焼、単体火災事例等の執筆を担当している。同調査委員会の活動の一環として取り組まれた市民行動WGでは、幹事としてリーダーシップをとって若手研究者をまとめ、「市民行動と火災に関するアンケート調査」によって、大規模な火災地区の多数の被

災者の状況把握に努めている。この市民行動WGの活動をベースとして、その後の火災学会地震火災専門委員会の活動に発展させている。

北後君は、このような活動の中で、地震後の火災延焼防止のための住民による消火活動、及び、地震後のビル火災時の避難に関連する研究に取り組み成果を上げている。住民による消火活動については、地震火災に対する地域住民の消火活動による火災抑制の効果を定量的に評価可能なモデルの開発を行い、消防水利や消火資機材の整備など防災計画の合理的策定ができることを示している。地震後のビル火災時の避難については、1995年阪神・淡路大震災の時に発生した地震後のビル火災時の在館者の動向や、2005年福岡県西方沖地震時等の在館者の避難動向を整理し、今後の避難対策の方向性を示している。

北後君は、密集市街地や高層建築物の火災安全に関する研究実績を生かし、地方公共団体などの市街地・建築物の安全化にかかわる公的職務に携わってきた。また、科学研究費補助金や競争的研究資金制度による関係大学や研究所との共同研究を推進し、その成果の公表も積極的に行っている。

以上のような功績により、同君に平成20年度日本火災学会賞を贈るものである。